アフリカに限らず、ODAの拡大に国民の支持を取り付けるには、その目的をわかりやすく説明するとともに、無駄のない効率的な実施がなされることを根拠を示して約束する必要がある。

アフリカに対する援助目的としては、人道上の考慮がもっともわかりやすい説明になるだろう。「人間の安全保障」という考え方をあらためて強調するのもよい。ただ、国民のアフリカに対する関心をさらに高めるには、それにとどまらず、アフリカが国際関係において持つ政治上の意味、戦略上の意味、さらには世界経済全体の長期的発展において占める位置なども十分に説明すべきだろう。

ODAが無駄なく効率的に実施されるために、コスト縮減の努力やチェック体制の強化が必要なことは言うまでもない。それとともに、国別計画の充実や現地タスクフォースの連携強化によってODAの効率性を高める努力をしていることも国民によく説明すべきである。アフリカへのODAといえばヨーロッパの長い経験がある、わが国がそれから何を学び何を学ばないかの説明も、ODAの効率性との関係で国民が聞きたいところだろう。

ODAは「開かれた国益」に基づき、被援助国の政治的、経済的発展を助けるためにある。被援助国の経済的発展への貢献という点では、ODAは民間資金（技術）や政府の他の資金の利用を含めた海外経済協力の一環としてとらえてはじめてその効果が期待できる。外務省は民間企業との連携はもちろん、海外経済協力会議に参加する財務省、経産省との連携を強化しつつ、この会議での議論をリードしていく能力を持たねばならない。